

【緑区】令和4年第2回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和4年6月8日 午後2時41分 ～ 午後3時43分
場 所	緑区役所4階 会議室4AB
出席者	<p>【座 長】今野典人 議員</p> <p>【議員：3名】鴨志田啓介 議員、高橋正治 議員、斉藤達也 議員</p> <p>【緑区：23名】岡田展生 区長、河村義秀 副区長</p> <p>宮嶋真理子 福祉保健センター長</p> <p>酒井啓彦 福祉保健センター担当部長</p> <p>新田巧 緑土木事務所長、齋藤優子 担当部長（緑図書館長）</p> <p>ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和4年度 緑区運営方針</p> <p>2 緑区に係る予算のすがた</p> <p>3 令和4年度 個性ある区づくり推進費 執行状況</p>
発 言 の 要 旨	<p>議題1 令和4年度 緑区運営方針 (区長説明)</p> <p>鴨志田議員：基本目標「ふるさと みどり」について、緑区が「ふるさと」であるならば、今は住んでいないが将来戻ってくる場所、つまり現役世代がいないような感じを受けてしまう。「ふるさと」に込められた意味を説明いただきたい。</p> <p>岡田区長：「ふるさと」にはいろいろなイメージがあると思います。自分が生まれ育った所という意味もありますし、私は緑区を第二のふるさとだと思っています。いろいろな意味のふるさとの中で、ここを大事にしていきたい、世代を超えてこのまちを守っていきたい、という思いを込めて、「ふるさと」という言葉を使っています。ただ、やはり時代に合った考え方があると思いますので、基本目標をつくる際には、キャッチフレーズについて改めて皆さまと一緒に考えてまいりたいと思います。</p> <p>鴨志田議員：今の御説明でもまだあまり腑に落ちないところがあったので、何かワードが思いついたらお話しさせていただきたい。</p> <p>議題2 緑区に係る予算のすがた (区長説明)</p> <p>斉藤議員：コロナ前と比べて、生活保護の受給者は増えているのか。</p>

平野生活支援課長：生活保護の受給者は微増又は横ばいで、生活保護よりも住宅確保給付金など生活困窮者自立支援制度の申請件数が増加しました。

齊藤議員：生活保護の方などの就労支援の状況はどうか。

平野生活支援課長：就労支援を行うジョブスポットにおいて、令和2年度は新規相談が311件、令和3年度は315件で、就職された方は令和2年度は206名、令和3年度は223名でした。

議題3 令和4年度 個性ある区づくり推進費 執行状況

(区長、副区長説明)

【4 交通安全施設等整備事業】

齊藤議員：日常の陳情やスクールゾーン対策協議会等で要望を集約しているとのことだが、今のところどういう要望があがっているのか。特徴的なものはあるか。

中野地域振興課長：要望として多いのは、路面標示が薄れている、電柱巻が古くなっているといったものです。なお、自転車盗については警察も非常に危機感を持っているようなので、緑区交通安全対策協議会などでも啓発を行っていかうと考えています。

齊藤議員：路面標示については、区役所の目の前のほか、長津田駅の北口駅前など、標示が消えていて危ない箇所があるので、区から緑警察署に強く要望していただきたい。

【5 暮らしの衛生推進事業】

齊藤議員：災害時のペット対策として、希望する地域防災拠点にスターターキットを配備とあるが、希望しない拠点もあるということか。

田中生活衛生課長：地域の御意見は様々で、やってみようと思っている拠点もあれば、ちょっと無理だと思われる拠点もあるのが現状です。ペット防災対策は人のためでもあるということを粘り強くお伝えし、取り組んでいきたいと思っています。

齊藤議員：動物と共生する時代の中で、ペットには癒し効果など様々な効果があるので、是非御理解いただけるように頑張ってください。

【7 共に支えあう福祉保健の地域づくり事業】

齊藤議員：民生委員による安否確認や定期的な訪問において、どのような

相談や不安な声があがっているのか。

米岡福祉保健課長：高齢者の方々が一番心配されているのは、コロナにかかったらどうしようということです。一方で、最近はワクチンの3回目接種が終わっており、大分安心していられている状況も見られます。民生委員の定例会の中でも、ワクチン接種の効果や4回目接種についての丁寧な説明等をしながら、民生委員が対応できるような支援を心がけています。

【19 みどり地域まちづくり推進事業】

齊藤議員：空き地・空き家・空き店舗を活用した地域のつながりづくり支援事業において、緑区ではどのような事例があるのか。

尾立区政推進課長：空き地や空き店舗などの活用として、緑区では菜園として使っていただいている事例があります。

齊藤議員：神戸市では、働きに来たベトナム人の方を中心とした多文化共生の畑という取組をしている。緑区でも空き地や農地を活用し、日本人と外国人の方が交流しながら作業できるといった仕掛けにより、一緒に汗をかいて話をするようなきっかけづくりも大事だと思う。

【32 広報・広聴事業】

齊藤議員：LINE やツイッターで緑区の情報発信を積極的にやっていただきたい。

【33 区民から親しまれる区役所づくり事業】

鴨志田議員：緑区データ集作成事業では、どのようなデータを公開するのか。

齋藤総務課長：人口動態、事業所数など国勢調査を含む各種統計調査の結果をデータ集にし、ホームページで発信いたします。

鴨志田議員：現在の状況だけでなく将来の予測データも分かると、区民の方々の活動などのきっかけになると思うが、いかがか。

岡田区長：市とも連携して、検討させていただきたいと思います。

【その他】

齊藤議員：コロナの予防という面から、高齢者の方が外出しなくなっている。そろそろウィズコロナの時代で、外に出るきっかけづくりをうまく仕掛けていくべきと思うが、いかがか。

岡田区長：感染状況も落ち着いてきましたので、区役所としても、ウォーキングイベントや健康づくり月間事業、各種講座、アートパークでの音楽会など、皆さまに外出いただけるようなイベントを仕掛けていくことで、地域の活動もそれに準じて回復していけたら良いと感じています。

齊藤議員：ウォーキングイベントは非常に参加しやすいので、緑区遺産のきっかけづくりという点からも、区民の方に緑区遺産を歩きませんかという企画は、是非お願いしたい。

鴨志田議員：人口減少・高齢化の中で、持続可能性のある社会にするためにも、高齢者の方が使いやすいようなデジタル化を進めていただきたいと思うが、いかがか。

岡田区長：Zoom の会議など、ICT を活用して新しい生活様式で地域活動を行っている地域も増えていますので、地域に対する講習会の開催、講師派遣、補助金の交付などを、今年度は実施していきたいと考えています。

鴨志田議員：この会議においても、積極的なペーパーレス化やオンライン会議を進めていただきたいと思うが、いかがか。

岡田区長：今回は紙資料の配付で行いましたが、今後はペーパーレス化に向けて検討を進めていきたいと思えます。

鴨志田議員：区民の方から、脱炭素と言っても何をされていて何が脱炭素なのか分からない、という声が聞かれるが、その辺りの啓発はどう考えているのか。

岡田区長：毎年、脱炭素化をテーマにした講習会を行っています。また、運営方針でも、SDGs を意識した計画としての記述を入れています。今年度の取組としましては、庁舎の屋上に太陽光パネルを設置していきたいと思っています。また、中庭を緑化し、区民の皆さまに見てもらえるような雰囲気作りも考えています。そうした区役所の取組を通じて、脱炭素の意識を高めていただきたいと思っています。

高橋議員：これからもう一回コロナを乗り越えて、ここからやっていくということを考えること、そして脱炭素については何が課題で、何を変えていくのかということが大事になる。

岡田区長：区づくり推進費の創設から 20 年以上が経過し、緑区は他区と何が違って何を打ち出していくべきなのかというのをしっかり考えて、脱炭素も含めてやっていきたいと思えます。

備 考	
-----	--